

学校法人自由学園と協働で、防災力強化を目的とした活動を始動 ～自ら考えて行動する「自助」「共助」体制構築のための活動範囲を拡大～

三菱地所レジデンス株式会社は、9月3日に学校法人自由学園と防災力強化を目的とした「防災協定」を締結します。本協定締結により、学校での授業を通し、小学生から大学生までの各段階に応じた防災教育に協働で取り組み、情報伝達が一方通行となりがちな一斉指導型の教育の殻を破って、防災について伝える側と受け止める学生側の双方向コミュニケーションの実現を目指します。学生が自ら悩み考え、答えを導き出すことで防災力を高めていくとともに、三菱地所レジデンスは防災訓練の主たる参加者である大人だけでなく、今般新たに学生を対象とした活動を始めることで、これらの活動で得た知見等を住まいの防災力強化に活かしていきます。

当社は、新築分譲マンション「ザ・パークハウス」において、マンションの管理組合とともに、より実践的な防災訓練を実施するため、社員の有志を募り2014年に「三菱地所グループの防災倶楽部」を立ち上げました。「自ら考え行動するための防災」をテーマに、「自助」「共助」の体制構築を推進すべく、防災セミナーや防災訓練時には「そなえるカルタ」等の防災ツールを用いたワークショップなども実施。2014年10月から計10件のサポートをしてきました。

活動を通して、居住者の防災力を入居前から高める必要性をあらためて認識したことから、「防災倶楽部」は活動範囲を拡大し、「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」（東京都新宿区西新宿）におけるエリアコミュニティ支援プログラム「西新宿 CLASS in the forest」では、8月22日に入居予定者も含めた参加者に対し「防災・減災」をテーマとしたワークショップを実施。そして、7月8日に自由学園で第1回「そなえるカルタ」ワークショップを行い、9月3日には防災力強化を目的とした「防災協定」を締結することで、「自ら考え行動するための防災」体制構築のための活動範囲を学生にも拡げていきます。

今後も三菱地所レジデンスでは、災害に対し「自ら備える」土壌づくりと互いに助け合う「共助」の体制構築を目指し、活動を行ってまいります。

活動対象の拡がり



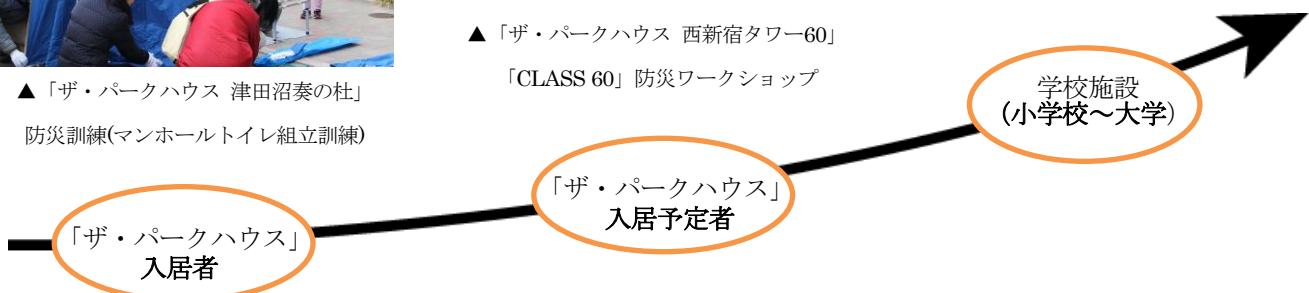
▲「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」
防災訓練(マンホールトイレ組立訓練)



▲「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」
「CLASS 60」防災ワークショップ



▲自由学園
「そなえるカルタ」ワークショップ



《自由学園および「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」での活動内容》

自由学園 第1回「そなえるカルタ」ワークショップ (2015年7月8日)

東北の復興支援を継続している自由学園にて、7月に実施した「そなえるカルタ」ワークショップには、高校3年生男子生徒22名が参加しました。三菱地所レジデンスの「防災倶楽部」担当者から「東日本大震災の被災者の声」を届け、「トイレ・水・食糧・情報・協働で行う被災生活・学校の再建」の6つのテーマについて、学生自らが被災生活を想像して、悩み、解決策を考えるプロセスを体験しました。



▲「そなえるカルタ」ワークショップ

<主なコメント>

「一人ひとりが『してもらう』ではなく『自分が行動する』ことが必要だと思った。」(学生より)

「一方通行になりがちな一斉指導型の防災学習ではなく、防災について伝える側と受け止める学生側の双方向コミュニケーションができた。」

(学校より)

「学生同士で解決策を考えるプロセスが、学生の応用力につながる。」

(学校より)



▲ワークショップ後の生徒のみなさん

今後は、9月3日に高校3年生女子生徒に向けた「そなえるカルタ」ワークショップを予定。さらに、山林で実施する校外学習活動等においては、実際にトイレの使えない生活の中で、トイレ凝固剤等の防災グッズを試用するなど、より踏み込んだ体験を通じた防災力向上を検討しています。

「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」 エリアコミュニティ支援プログラム「西新宿 CLASS in the forest」

「CLASS 60」第4回 防災ワークショップ (2015年8月22日)

東京都新宿区西新宿5丁目にて開発中の「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」におけるエリアコミュニティ支援プログラム「西新宿 CLASS in the forest」では、自然、防災・減災、多様性という3つのコンセプトを軸に、入居前の2015年から入居後の2020年まで6年間にわたって多彩な集いの場を提供しています。

4回目のイベント開催となる今回は、入居予定者を含む約30名の方にお集まりいただき、マンションの見取り図を用いた「マンション散策体験」や、タワーマンションの防災において特に取り組む必要がある「トイレ・情報」2テーマの「そなえるカルタ」を用いた「よき避難者ワークショップ」等を実施しました。



▲「CLASS 60」防災ワークショップ

<入居予定者の主なコメント>

「実際の建物の防災備品の場所をあらかじめ知ることができて良かった。」

「同じフロアでの付き合いがとても大切だと感じた。」

入居前からマンション契約者・検討者が防災について考え、またテーマを定めたコミュニケーションを通して居住者同士のコミュニティが形成されることで、入居時の防災活動開始が円滑に行えること、マンション全体の意識向上に寄与すると考え、入居前の防災力強化にも取り組んでいきます。

■三菱地所レジデンスが進める防災関連の取り組み

◀「防災倶楽部」の取り組み▶

三菱地所グループでは、1923年に発生した関東大震災以降、約90年にわたり大規模な防災訓練を実施しており、グループ全体で防災・減災に取り組んでいます。2014年にマンション管理組合の防災組織・訓練を進化・深化することを目的に、三菱地所レジデンス等の社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を立ち上げ、現在約80名が活動しています。本年3月に実施した「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」の防災訓練にも「防災倶楽部」メンバー約35名が参加し、トイレの備えの重要性の説明、マンホールトイレ組立訓練、ワークショップなどに協力しました。

「防災倶楽部」は防災訓練への協力だけでなく、被災地で活動する人々との連携、勉強会の開催、防災備品使用訓練といった活動を通して、「ザ・パークハウス」の防災力を高めていきます。

防災訓練等の実績

日付	物件名	エリア
2014年10月19日	ザ・パークハウス 横浜吉野町	横浜市
2015年1月25日	ザ・パークハウス 天神橋1丁目	大阪市
2015年3月1日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜	習志野市
2015年4月12日	ザ・パークハウス 上北沢	世田谷区
2015年4月26日	ザ・パークハウス アーバンス 三軒茶屋	世田谷区
2015年5月24日	三菱地所コミュニティによる居住者向け防災セミナー	千代田区にて開催
2015年6月14日	ザ・パークハウス 大宮氷川参道	さいたま市
2015年7月26日	ザ・パークハウス 祇園	広島市
2015年8月1日	ザ・パークハウス 宮前平レジデンス	川崎市
2015年8月22日	ザ・パークハウス 西新宿タワー60 防災ワークショップ	新宿区

「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」防災訓練（2015年3月1日）

三菱地所レジデンス株式会社と三菱地所コミュニティ株式会社は、2015年3月1日に、千葉県習志野市で2013年6月に全体竣工した総戸数721戸の大規模マンション「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」の管理組合と協働し、従来の消防・避難訓練に留まらない「被災生活」まで想定した、より実践的な防災訓練を実施しました。

2016年4月17日に予定している2回目の防災訓練では、本物件の居住者に加え、未だ防災訓練の実施経験のない隣接マンションの居住者や、2016年11月引き渡し予定の「ザ・レジデンス津田沼奏の杜テラス」（総戸数291戸）の契約者も招き、地域の防災力強化につなげる予定です。

このような取り組みを通して、入居前からの隣接するマンションとのコミュニティ形成や、学校と周辺居住者とのつながりなど、建物1棟ずつの点にとどまらない、面としてとらえたエリアの防災力強化に努めます。



▲イメージ図

《「そなえるカルタ」》

東日本大震災被災地等の実地に基づいた経験や防災に関する情報などをわかりやすく紹介するために、「そなえるカルタ」を活用。表面にテーマごとのあるべき行動指針、裏面に被災地で起こった実際の状況を示し、あらかじめ居住者間で議論やシミュレーション、意思統一が行われることを促します。カードに分かれていることで関心の高いテーマをピックアップして物件ごとの状況・ニーズに対応しやすいほか、項目ごとに表裏で1枚のカード状になっているため、会議等で広げてディスカッションしやすいといった特長があります。

災害を受けた方々の実体験は勉強になりました。

22 食糧

停電と同時に食材が傷み始めます。

- 炊事から数日は、備蓄に頼まれている食料での対応。家族も多いと思いますが、停電している間は、冷蔵庫の生ものも使えません。
- 停電でもあった食料を食べては健康を害すことです。被災地においては食費が高額なことです。

どの情報が使うの？

生活班

いつ使うの？

初災時

Q 停電で傷みはじめた食材を、どうしますか？

避難所が足りないことを、カルタを見て気付かされました。

01 導入

避難所は大幅に足りなくなります。

- 自治体によって指定避難所が設定されています。避難生活を送る上での情報や物資の確保が重要です。
- 中学校など公共施設が避難所に指定されていますが、すでに予約が埋まっている場合があります。避難所を確保しきれないことが予想されます。

どの情報が使うの？

避難誘導班

いつ使うの？

平常時

Q 避難所に行く？それともマンションにとどまる？

電気が止まると、食材が傷みはじめる。言われてみればその通り。平常時では意外と被災時のことが想像ができていないと実感した。

被災生活は、小学校や避難所で過ごすものと思っていた。漠然と想像していたことが、カルタを通して具体的に知ることが出来た。

理事長という立場なので、情報を取りに行かなければならないと思った。

41 情報

待っていても情報は入ってきません。

- 物件の名称や名称手続など避難所が対応する情報は、災害や大規模地震、石油やガスなどの供給が断たれると、届くことがありません。事前に確認する方が自然で無駄な心配から済ませることもできます。

どの情報が使うの？

情報班

いつ使うの？

被災生活期

Q 必要な情報を収集する員体系はありますか？

トイレの備えの重要性がよく分かり、さっそく凝固剤を買いに行こうと思いました。

11 トイレ

災害時でも我慢できないのがトイレ。

- 設備がしずかや他がなく、限られた敷地が賃貸都市のマンション、賃貸物件についてルールが定まらず、さらには問題になります。
- マンショントイレは、中庭で使うことは想定されています。

どの情報が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期

Q 水が使えずトイレが滞りない時の対策、どうしますか？

災害時はトイレが大きな問題になることを知らなかったため、大変良い学びになりました。

被災生活は自分の部屋で出来るが、情報はみんなで共有しなければならないので、協力が要ということに気づけた。

トイレは生理現象なので、必ず被災生活で必要になる。備えをしなければいけないということ強く思った。



《「被災地から学ぶ・被災地とつながる」》

東日本大震災では、地域で被災した人々が自らの職業や技能を活かし、他の困っている方々のために援助の手をさしのべたことが、大きな力になりました。三菱地所レジデンスでは、「復興応援団」の協力のもと、こうした方々取材した具体例のリーフレットと居住者アンケートシートを作成。こうした具体例を居住者に伝え、各居住者が有事の際に役立てる情報を管理組合が集めやすい仕掛けづくりをしています。

※復興応援団について

2011年3月14日に東日本大震災に際し発足した、仙台・東京・関西のNPOと日本財団の合同プロジェクト「つなプロ」の現地本部長に就任し、500人以上のボランティアとともに宮城県全域の避難所調査と人材・物資のマッチング活動に取り組んできた佐野哲史氏が、中長期にわたり復興を支える「地域のファン」づくりを目的に創設した団体。現在までに、1,100人を超えるボランティアをツーリズム形式で被災地に送り出しています。



思いも寄らなかった力が、 かけがえのない助けになりました。

東北で活躍した、身近なサポーターたちをご紹介します。



主婦 戸田 香代子 さん

地元の道に詳しいことが買われ、車の運転をしました。ボランティアや巡回診療のお医者さんに乗せて、避難所を回る役目です。震災後ふさぎ込んでいた時に、外に出るきっかけをもらったようなもので、誰かの役に立てることが単純に嬉しかったです。



元現場職員 中津川 豪 さん

役員職員としてスポーツ少年団に長年関与していたので、全世代に顔が知られていました。災害現場の経験も多かったので、津波の警報でパニックに陥った人々に声をかけて鎮めたり、地域ごとにリーダーを決めて組織化しました。



喫茶店経営 山浦 進市 さん

避難所の牧場にテントを張り、無料喫茶を開店しました。泥に埋まった店から豆とミルクとレコードを探し出し、ジャズを流しながらドリップコーヒーを提供。避難者、ボランティア、報道、医療関係の方々から安らぎの場として喜んでもらいました。



料理人 渡邊 幸雄 さん

30年以上中華店を営んできた経験から、流れ着いた食材や救援物資で、避難者と支援者700人への炊き出しを主導しました。地元の人々への恩返しをしたい、今やらなければ一生悔いが残る、と心を決めて、少しでも美味しいものをと、工夫しました。



理学療法士 橋本 大吾 さん

避難所で、壁を手で伝いながら歩いているお年寄りに会いました。避難生活の中での栄養・運動不足による体力不足が原因で、すぐに保健師さんにつないで歩行器を購入。これをきっかけに避難所や仮設住宅で体操教室を始めました。



看護師 鳴海 幸 さん

うがい・手洗いの徹底、トイレ対策など衛生環境の整備と、避難者への声かけや健康相談に取り組んで、近所の診療所につなぎました。感染症の流行も最低限に抑えることができ、夏には全員無事に仮設住宅に移ることができたのは、小さな誇りです。



主婦 山田 葉子 さん

家族に持病があり、避難所の看護師に声をかけたことで、医療スタッフや避難所運営本部と、避難所住民や在宅避難者のパイプ役になりました。私も自宅を失った被災者ですが、出来る範囲でやっただけ。そんな私を多くの人が助けてくれました。



中学生(当時) 左から、菊池 亜紀さん、村上 彩乃さん、大谷 逸稀さん

大谷さん震災の日の夜は山火事の延焼を防ぐため可燃物を山から運びました。翌日からは船やヘリで届いた物資を局内に届ける作業をしました。動ける男はみんなやりました。村上さん菊池さん・女子はみんな避難所でおにぎりを作って配りました。



団体職員 工藤 寛之 さん

市の災害対策本部に集まっていた被害状況をノートにまとめてテレビ局に届付ました。昔勤めていたのでテレビ局に行くことに抵抗もありませんでした。おかげで朝日の朝のニュースで取り上げられて物資も支援も届くようになりました。



COMMUNITY CROSSING JAPAN



三菱地所レジデンス